

磐城時報

日刊 廿二
印刷所 磐城時報社
発行所 磐城時報社
〒960 磐城
電話 二一〇〇
代金 毎月五元
送料 毎月一元
電話 二一〇〇

平水道料金値上げ

條例漸やく認可

直ちに工事に着手
十月一日から実施

平町では本年度豫算編成の町會に於て水道料金値上げを目的とする水道條例改正の件を議決し主務省に認可申請中であつたが、以て五ヶ月を経過しても認可されぬので町當局で焦り去る十九日青沼町長自ら上京し大蔵省、内務省に至り事情をのべて懇々陳情した結果愈々認可される事になり正式指令は明日申到着する事になつた、平町では直ち開催した町會で町長退職慰勞會に於て公用金のメートル工事に參會者三百八十五名で剰余金百着手し十月一日から改正條例に三十圓を二十日町會校長に贈呈より料金を徴収する事になつた。

川瀨炭礦紛擾

突知坑口を封鎖す

形勢悪化を憂慮し
平署で嚴重警戒

赤井村川瀨炭礦は既報の如く川委せたものでなく坂田順治氏に瀨幸治氏が貸貸してある今田、貸したものを更に借りうけたも諸橋兩氏に對し礦山の返還を迫のであるため川瀨氏は坂田氏より平署に告訴した事件は平署で契約解除の協定をなした上二十一日の取調へを行ひ書類を平署一日夜炭礦坑口を封鎖したので、事局に送り平検事局で目下關係従業員十數名は作業不能に陥る者を取調へ中であるが、川瀨氏に至り二十二日朝平署に出頭解は直接今田、諸橋氏等に礦區を決方を依頼したが、形勢悪化せ

松本君の 紀念碑建立

滿洲獨立守備隊第六十七聯隊で砲道指南中殉死した四倉仲町松本清吉氏長男佐一郎君の三年忌供養會は二十日午後一時四倉町建立したが、新妻四倉町長を始め菅波助役、役場吏員、その他二百餘名參列した。

情婦を囚にして お目見得詐欺

玉川方で三百圓

南會津郡楢原村大字大内農佐藤結局長者たる六十一歳の鈴木戸右衛門(三八)は情婦である田島吉氏が當選した。烏町の藝妓阿部かねよ(二二)と共謀し去月中平町銀治町藝妓屋玉川事國府田直良氏方に至り阿部かねよを藝妓に仕込ませ詐欺前借金三百圓を持ち去つた。行衛を睡ましたので平署で捜索中の處二十一日双葉郡浪江町で佐藤戸右衛門のみ捕はれた。佐藤は同様手段で各方面でお目見得詐欺を働いてゐた常習犯である。

入遠野村長 石城郡入

遠野村では十八日村長選挙の村會を開いたが、鈴木爲吉、柳田武美の兩氏同点となつたが、

異議申立の 行政裁判

平町新川町中野吉氏が昭和七年度特別税戸数割八百三十四圓四十銭に異議を申立て縣參事會で却下され行政裁判所に訴訟を提起した第一回口頭諮問は二十一日行はれ平町からは青沼町長が出廷した。

曾我氏慰勞會

平第一小學校職員並に舊職員一同は二十二日午後五時から松ヶ岡公園とこきわで退職した曾我校長の慰勞會を開く。

第二區研究會

石城郡第三區第一方部小學校研究會は二十五日午前九時から内郷第二校に開く。

四倉校落成式

四倉物として味覺をそつてある秋魚が食膳に上るのも間近い事であらう。

殴られた松崎町議 検事の調停をも拒絶

平町月見町々會議員根本品藏氏が、同問題は事件の起つた去るが平町新川町々會議員松崎長太十五日以來青沼町長、井上議長郎氏を殴打した事件は既報の如くその他多數町會議員等が調停に於てあるが、平検事局では二十日奔走したに拘らず妥協が成立し解を勧めたけれども松崎氏が應の強硬な態度に一驚を喫してゐる。

秋の味覺をそつる 秋刀魚……待ち遠し

食膳に上るも間近い
磐城丸からの報告

二十日秋刀魚漁が解禁となつたので小名濱水産試験場磐城丸は漁場調査のため岩手縣方面に向つたが、之に隨ひ石城各濱の漁船が全部出漁した。磐城丸からの情報によると岩手縣釜石沖東回春園から中會根逸郎永病の夜毎蛙になかれけり青蛙鳴いて雨雲さそひけり坂下りて青葉の中の灯かな酸模の花の匂めく賑かな老鶯や道をばさんで杉の叢庭石の風おもしろき草月かな青梅の實のつらなるを見上げけり燈臺に登りつくまでの青葉説微北三百六十涯の海區で魚群を發見し一隻で四萬尾も漁獲した漁船がある由であるから秋の名魚として味覺をそつてある秋魚が食膳に上るのも間近い事であらう。

貧困者調査

石城郡共済委員會評議員會は十月一日午前十時から内郷村磐城炭鑛紀念會館に開き内郷村内の貧困者の生活状態を調査する。

第一校研究教授

平第一小學校では二十一日、二十二日兩日唱歌玉瀨、算術松崎兩訓導の研究教授を行ひ二十二日午後二時から批評會を開いた。

懸賞盆歌

郷土踊り振興のため過般勿來町家の光青年會、勿來第一、第二青年團主催で勿來盆踊歌詞を募集したが審査の結果左の通り當選發表した。

豚肉不足

石城地方は近來豚肉に非常に不足を告げて本春まで百目當り六七錢であつた相場が十二三錢に昂騰して尙買入れに容易でなく平屠殺場の如きはさる十六七日の兩日を休業した、十八日において僅々六頭、湯本町に二頭、四倉町に三頭、湯本町に二頭、四倉町に一頭を分配する現狀で供給に充分でないため相馬郡原町から六頭及び茨城縣方面からの移入によつて需要に應じてゐるが、不足の原因は昨年夏から秋にかけて豚コレラの流行に屠殺處分にされた影響で昨今の屠殺は今年養仔の比較的大きいものを抜き取つてゐる有様である、昨年の豚コレラは殆ど全國的のものであつた關係から中央にも近年にない不足を來してゐるから豚肉の相場はまだ上るであらう。

綴の賭博

六名捕はる
内郷村大字綴字町の内六五無職青木元壽(四三)方で二十一日午後十時頃同村大字高坂炭鑛雜夫後藤長之助(四五)同村大字濱井場探炭夫加々美高三(二六)同村大字内同佐々木豊吉(三二)同村木キヨ(四六)同字宮吉川幸太郎(四五)の六名が車座となり花合せ賭博開帳中平署に捕はれた。

豚肉不足

石城地方は近來豚肉に非常に不足を告げて本春まで百目當り六七錢であつた相場が十二三錢に昂騰して尙買入れに容易でなく平屠殺場の如きはさる十六七日の兩日を休業した、十八日において僅々六頭、湯本町に二頭、四倉町に三頭、湯本町に二頭、四倉町に一頭を分配する現狀で供給に充分でないため相馬郡原町から六頭及び茨城縣方面からの移入によつて需要に應じてゐるが、不足の原因は昨年夏から秋にかけて豚コレラの流行に屠殺處分にされた影響で昨今の屠殺は今年養仔の比較的大きいものを抜き取つてゐる有様である、昨年の豚コレラは殆ど全國的のものであつた關係から中央にも近年にない不足を來してゐるから豚肉の相場はまだ上るであらう。

感想と隨筆

愛兒を失ふ

(一) 平署 千代田生

昭和五年五月二日午前八時三十分長女は永遠の眠りに就いた。死—それは生ある者の必ず迎ふべき事實であり、此の一大法則は誰しも否定は出来得ない。咲きたる花は散り、満ちたる月は缺けるけれども、散りたる花は再び咲き、缺けたる月は再び満ちるものを...だが人間の死は一度死しては再び歸り來はしない。

生者必滅の條理はよく知つて居る。無常の風は時を嫌はぬ事も知つて居る。人間はどうか一度は死するもの、一年後か、十年後か、五十年後か、時の長短こそあれ一度は必ず死の道を通るのだ。それ程よく判つて居る死でも、一度死に遭遇すると気が狂ひさうだ、魂が消えてしまひさうだ、特に親として子を失ふことは程悲惨なものはない。宗教家は此の死に對する覺悟を教へて居る、されど常に死を覺悟する者、死に對する覺悟を常に持つ者果して幾人あらう。殊に子の場合に於て生者必滅の條理を否定する者萬人中一人もない、だが萬人全部が死の覺悟を持ってはしないのだ、特に子の場合に於て。所詮は死に遭遇して而して時にあきらめるより外に凡人としては道がない。

此の語にも親の場合があり、夫婦の場合があり、兄弟の場合があり、子の場合がある、けれども子供の最も諦めにくく、最も愛するもの、不幸な言葉ではあるが親は先に立つもの、この觀念があり、親の心持が遠く、いふ程子と親とは心持が遠く、子として親の死に逢ふよりも、親として子の死に逢ふ事の方が、得ぬ自分には諦めにくい。

平町人事

出生

舊城跡一鈴木壽得吉三男一郎、田町四五安達郡白岩村白岸三、五九大河原孝貞丸長女俊子、舊城跡二四七青森縣北津輕郡七和村持子澤笠野前二四七今、惣吉長女英子、北白銀町四二、茨城縣久慈郡大子町澤川一六、九〇笠井靜造二男義夫、死亡。

鼻の薬「チクノール」

山野邊藥局

求職

事務員 平町四町目小田洋行 方谷川(三〇)中卒
電気機械職工 好間村北好間 宇澤小谷十酒井喜好(二六)高卒
トラック助手 平町童兒町二 二階堂勝治(一〇)尋三修
出前持 内郷村小林正夫(三九)測量士 平町研町十七佐藤豊治(四八)攻玉社數学科卒
女中 双葉郡木戸村上野原大山サワ(二四)

和洋銅鐵金物問屋

久益屋商店

諸橋久太郎

電話九九九番

平看護婦會

會長 清野キヨ

平町字南町【電話三〇七番】

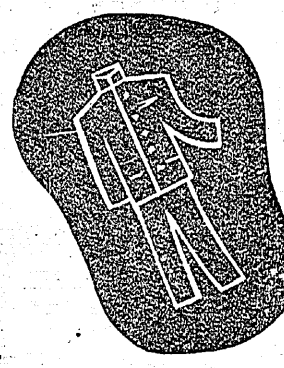
看護婦派出の需めに應じます

黒小倉通學服賣出

冬服の御用意をなさいましたか弊店は御満足の頂ける黒小倉を澤山取崩へ特價にてお務めております。

小學生用(長ズボン付)
A.....90.00
B.....1.10.00
特製品.....2.50.00
中學生用
特製6號.....3.50.00
御註文.....6.80.00

ふかや洋服店 平三 電208



ガス入電球、値下グニ 次々又値下グ

十燭以下十二錢...五十燭マデ十八錢 (御電話ガアレバ届ケマス)

平三 大谷時計病院 眼鏡科 電話十九番

咽喉科専門

平町田町七十番地 山内醫院 醫學士 山内亨 吉 入院隨意 病室完備 電話六九一番

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス (呼吸器病バカリデハアリマセン)

平町南町六五改(電話一八一番) 川井内科診療所 醫學士 川井重子 女醫 川井安子

室内裝飾設計請負

家具、漆器、株式、銅器、佛具、會社

丸ほん

營業所 福島縣平町三丁目 電話三五九番 振替東京二一七二四番 製作所 電話一八二番

内科 小兒科 (入院應需) 花柳病科 藤沼醫院 平町紺屋町 電話平國五〇七番

外務社員採用 初任固定給月三十圓 廿五才以上 男、女、を問はず 履歷書携帶左記へ 面會毎日午后 平町田町一七 レストラン サロン方 仁壽生命平駐在 吉田仁三郎 電話三五二番

福島縣平町十五丁目 常磐商工助成株式會社 電話四六六番 振替東京六二九二番

株主の幸福

一、年四分の報償金を差上げます(他に利益配當)
一、一世帯二千圓迄御貸付致します(株券の倍額)
一、株券御不用の場合には券會社で御引受致し川御貸付も御返濟も株主本意に御取扱致します
一、法律經濟の御相談は無料で御引受致します

石炭 平驛前 阿部石炭商店 電話三七番